

Vāsuki-purāṇa の Jimūtavāhana 物語

柴 崎 麻 穂

Jimūtavāhana(J) 物語は、Vidyādhara 族の王子 J が一匹の蛇の身代わりとなって、ガルダに自らを施身する経緯をメインテーマとする物語である。J 物語は *Br̥hatkathā*(BK) 系の説話集をはじめ、Harṣa の *Nāgānanda* などに採用されている¹⁾。現存 J 物語諸本の半数以上が北インドに由来している。

本稿では、J 物語の変遷の考察の一環として、従来の J 物語研究²⁾ で扱われることのなかった *Vāsuki-purāṇa*(VāsP)³⁾ の J 物語を取り上げる。特に J 物語研究の中核となる、BK 伝承の J 物語——本稿では1081年に完成した *Kathāsaritsāgara* (KSS) 4.2——との対応比較を通じて、VāsP の J 物語が現存 J 物語諸本中で如何に位置付けられるべきかについて検討する。

VāsP はカシミールに伝わる地方プラナーで⁴⁾、*Br̥ṅgiśa-saṃhitā* 所収の *Bhuvanakośa varṇanodyota* に属するとされる。A.R. Shastri は VāsP を1つの写本をもとに校訂した。現在手にし得るのはこの一冊のみである。この写本の成立年代については M.A. Stein の *vikrama-saṃvat* 1809 (A.D. 1752) 説⁵⁾ と A.R. Shastri の *vikrama-saṃvat* 1807 (A.D. 1750) 説がある。しかし VāsP 部分自体の成立に関しては、現時点ではほとんど論じられていない。全構成は、503 詩節の śloka よりなり、そのうち 1-118 (全体の約4分の1) が J 物語、119-503 は Nāga 族の王 Vāsuki にまつわる物語をその内容としている。119詩節以降には J は一度も登場しない。119詩節以降の研究については他の機会に譲り、本稿では J 物語該当部分のみを扱うこととする。

VāsP の J 物語を構成するモチーフは以下の如くである。J 物語共通のモチーフ分類に従って示すと、-1. J の生い立ち (VāsP2-10)、2. 困窮者の救済 (VāsP11-20)、3. 王国の放棄 (VāsP21-30)、4. Malayavati との結婚 (VāsP3-106)、5. J の Garuḍa への施身 (-)、6. 蘇生 (-)、7. J, Vidyādhara の転輪王に (VāsP107-118) となる。

この VāsP の J 物語の特徴は次の3点に集約し得る。

第1は、VāsP の J 物語 118 詩節中、1-106 までがほぼ完全に KSS 4.2 の J 物

語 (KSS4.2.16-256) の 16-121 と対応している点。VāsP と KSS 4.2 を比較検討すると、両者が対応しない部分はその大半が *ca*, *iva*, *tu* などの接続詞や虚辞、あるいはわずかな単語の入れ換えであり、内容上の変更が生じるような異動は認められない。これは VāsP が KSS 4.2 そのもの、あるいは KSS 4.2 と同質のテキストを参照していることを示すものと考えられる。

第 2 は、VāsP 106 (KSS 4.2 と対応する最後の詩節) と VāsP 独自の J 物語の記述がはじまる VāsP 107 との間にストーリーの断絶がある点。即ち VāsP は J の前生物語の中盤 (106) で話が途切れ、続く 107 では何の脈略もなく突然 Pārvati が登場し、Vidyādhara の転輪王となる J に対して即位灌頂を行く場面へと移行する。このようなストーリーの飛躍は、KSS 4.2 をはじめ他の J 物語には認められない。通常この Vidyādhara の転輪王の地位獲得のモチーフはメインテーマとなる J の施身のモチーフ (上掲のモチーフ 5, 6) を機縁として語られる。ここに認められるストーリーの断絶は、明らかに 106 と 107 が人為的操作によって結びつけられたことを示している。

第 3 は、VāsP 107 以降でストーリーが簡略化している点。最も特徴的なのは J 物語のメインモチーフである、J のガルダへの施身 (モチーフの 5, 6) が全て省かれていることである。このメインモチーフの省略は、先述したストーリーの断絶をもたらす原因となっている。J の施身譚は KSS 4.2 では 33 詩節 (KSS 4.2.217-250) を費やして説明されるが、VāsP では 110-111 のわずか 2 詩節の J の台詞の中で手短かに言及される⁶⁾。同様の省略が VāsP 117-118 にも見られる⁷⁾。この簡略化は、VāsP の作者が何らかの理由で KSS 4.2 の後半部分と同一のストーリーを改作したことを示しているといえよう。

以上、VāsP の J 物語が様々な点で KSS 4.2 との関連を有していることが確認された。いずれにせよ VāsP の J 物語が KSS 4.2 の典拠であるとは考えられない。むしろこの VāsP の J 物語は KSS 4.2 の改作と見なしてよからう。従って VāsP の J 物語を KSS 4.2 成立以前に位置付ける A. R. Shastri 説は否定せざるを得ない⁸⁾。これまでの検証を総合すると、次の結論が導き出される。即ち、VāsP の作者は VāsP を作成する際に、BK 伝承の J 物語の一つである KSS 4.22 を直接参照して、J 物語を挿入した。その際、KSS のテキストを粗雑に扱ったためか、VāsP の J 物語にはテキスト上多くの不備を生ぜしめた。KSS 4.2 を直接参照している点で、VāsP は KSS 4.2 に大幅に依存する J 物語と言える。特にス

トリーを中心部分となる J の施身譚以降が著しく簡略化され、VāsP の J 物語の構成全般が不均衡なものとなった。VāsP の J 物語部分の成立は KSS 4.2 成立以降に位置付けられるべきである。また、従って今後この VāsP の J 物語は J 物語祖型探求の直接的資料として考慮すべき必要はない。

最後に、VāsP が J 物語を取り入れた要因を考察するに、両者の主題がいずれも Nāga 族に関連している点にあると思われる。というのも Nāga 族の王、Vāsuki を中心に展開する VāsP にとって、結果的に全 Nāga 族の救済⁹⁾ が実現される J のガルダへの施身の物語は非常に効果的に作用する題材となるのである。

-
- 1) 現存する Skt テキストは、次の通りである。(1) *Kathāsaritsāgara* (KSS) 4.2. 16-256, (2) *Bṛhatkathāmañjarī* (BKM) 4.3. 50-108, (3) KSS 12.23 (*Vetālapañcaviṃśatikā* (Vet.). No. 16), (4) BKM, 9.2.18 (Vet. No. 16), (5) *Śivadāsa* (Vet. No. 15), (6) *Śivadāsa*, Handschrift f. (Vet. No. 16), (7) *Jambhaladatta* (Vet. No. 24), (8) *Bhaviṣyapurāṇa*, III.2.15 (Vet. No. 15), (9) *Harṣa, Nāgānanda*, (10) *Somendra, Avadānakalpalatā*, No. 108, (11) *Vāsukipurāṇam*, 1-118.
 - 2) F.D.K. Bosch, *De legende van Jimūtavāhana in de Sanskrit-litteratuur.*, Leiden, 1914.
 - 3) A.R. Shastri (ed.), *Vāsukipurāṇam*, Delhi, 1981.
 - 4) A.R. Shastri, *Vāsukipurāṇasya kālah purāṇeṣu sthānaṅ ca*, Purāṇa 22-2, Varanasi, 1980, pp. 212-219.
 - 5) M.A. Stein, *Catalogue of the Sanskrit manuscripts in the Raghunatha Temple Library Jammu, Lahore*, 1884, p. 210.
 - 6) 「私は Śaṅ を守り、ガルダは行いを改めました。私が命を取り留めたために両親は元気を取り戻し、夫を取り戻したためにマラヤヴァティーも息を吹き返しました。」 (...śaṅkhaçūḍo mayā trāto garuḍo vinayikṛtaḥ// 110 mama jivitalābhena pitarau jivitau punaḥ/ bhartṛlābhena ca punar jātā malayavatyapi//111) (VāsP 110-111)
 - 7) VāsP 117-118 詩節では、登場人物たちがそれぞれ本来の地に戻って物語の結びとなる最終場面 (KSS 4.2. 251-256) について KSS 4.2 と同一の内容を簡潔にまとめている。
 - 8) A.R. Shastri (ed.), *Vāsukipurāṇam*, Delhi, 1981, pp. 3-7.
 - 9) ガルダ伝説の、ガルダと Nāga 族との確執については Mbh. 1. 18-30 を参照のこと。

〈キーワード〉 Jimūtavāhana, Vāsuki-parāṇa, Kathāsaritsāgara

(東京大学大学院)